

'When you wear a pair of open-toed shoes...' (オープン・トゥは難しい?)



'Walking tours and using public transportation are great experiences I can only have with a guide.' (せっかくガイド付きなのだから公共交通を使って街を歩きたいわ)。初夏、3年ぶりに再来日した米国人女性が言った。(公共交通と敢えていうのは、訪日観光ではよく貸し切りハイヤーが使われるからである)。さっそく路線マップを渡して蛍光ペンでルートをなぞり、ルートを説明、PASMOを買って改札をくぐる。

電車の中は質問攻め。中吊り広告をひとつひとつ指しては、

'What's that advertisement for?' (あれは何て?)。'You see, it's very funny a man is promoting a hair dryer...!' (ほらみて、男の人がドライヤーを宣伝するなんておもしろい)。'That one I can understand...Summer Sale! And I clearly see, in the last three years Tokyo has more English signs...'
(サマーセール! これは私でもわかるわ。それに、3年前にトウキョウに来た時と比べて、確実に英語表示が増える気がするわ)。

広告よりおもしろいのは人である。居眠りする人、iPhoneやDSでゲームしてる人、営業中のビジネスマン...。突然、'That can never happen!' (ゼッタイありえない!)とお客様が私に耳打ちしたのは、'People who are wearing a pair of stockings when wearing sandals or any kind of open-toed shoes'. (サンダルなどオープン・トゥの靴なのにストッキングを履いている女性たち)である。

'When we wear sandals, we never wear stockings.' (私の周りではサンダルを履くなら素足。ストッキングを合わせることはしないわ!)と。

'They are wearing what we call 'nude-toe' so that their toes look natural, you see?'. (つま先の切り替えがないヌード・トゥでもダメ?)と聞いてみたのだけど、オープン・トゥならともかく、ストッキングの足先部分が

見えるのは'No way!'なのだそう。

'I can see quite many Japanese ladies wear them. Perhaps they love stockings...'
(こうして見てるとストッキングを履いている女性が多いわ。きっと日本人女性はストッキングが好きなのね)。日本人はマスク好き、日傘好き、本にはカバー。そして、脚にはストッキング!?!まあいいや。



'Also it's because of our culture... we still have Japanese rooms, Japanese restaurants, sake bars, where we take off our shoes, and therefore we are supposed to wear any kinds of socks... barefoot is unacceptable.' (日本の場合、生活習慣もあると思うの。家に上がったり和食レストランや居酒屋さんなどで靴を脱ぐ機会が多いのね。そのとき裸足だとマナー違反になってしまう。何かしらで足を覆ってないといけないっていうのは大きいかな)。

外でやたらと靴を脱ぐのはきっと日本独特なのだろう。ディズニーランドのパレードやお花見でレジャーシートを敷いて靴を脱ぐ光景は、それはもう大変珍しがられるし、足湯なんてその究極形!?!だから、外国からのお客様を案内するときは、'Tomorrow we are to visit shrines, where we are asked to take our shoes off...'. (明日は神社で靴を脱いでいただく場面がありますよ。)等と、事前アナウンスが必要なのだ。

電車を降りると、ある大学の学食へ向かった。というのは、'I'm also interested in infrastructure for modern cities: transportation for people and cargo, large markets, power, water, sanitation, health systems, schools. (トウキョウのインフラを体感したいわ。交通に流通、マーケット、発電、水、公衆衛生、健康、そして学校ね)'. というリクエストをあらかじめ受けていて、限られた時間のなかでは学校が唯一 accessible だったから。

正門をくぐると、迷わず学食に進む。キャンパス中のガヤガヤが凝縮された場所だ。まずは破格の学食メニューや売店をチェック。そして、髪を染めてカジュアルな服を着ている学生さんと、黒髪に黒スーツ、黒カバンの学生さんたちが目に入るので、'Those are job hunting students...they are supposed to wear formal business suits and their hair is supposed to be black...'
'と、ジョブ・ハンティングの事情を説明する。そう、シューカツの女子学生が例外なく淡いページのストッキングを履いていることも。'I can never stop watching these people...'
(ずっと見ても飽きないわ)。躍動感溢れる大学のキャンパスは、魅力的な観光スポットだ。

帰り際、お客さまとデパートのストッキング売り場に立ち寄った。ラメ入り、5本指、つま先が切れたものまで、一通りサンプルを触って観察して、いろいろあるね、でもやっぱり普通のデザインの、それもオールスルーがいちばんエレガントよね、なんて言い合いながら。そして夕刻になり、お客様をホテルにお送りする。

'I am looking forward to seeing you again.' このフレーズがリアルに響くのはリピーターのお客さまならではの。お互いそれまで元気で、Let's move on, 前に進もう。そんなエネルギーが湧いてくる、大好きな瞬間である☆(完)